

SFX リンクリゾルバの導入効果と今後の課題

渡邊 望 相馬典子
国際医療福祉大学図書館

国際医療福祉大学(以下本学と表記)図書館では、リンクリゾルバの導入を検討して 2011 年 2 月より SFX®ASP サービス(以下 SFX と表記)の試行を行ない、学部・大学院図書委員会において教員の意向を確認した。ILL の申込状況と SFX の利用統計の分析から導入効果と今後の課題を報告する。

I .ILL の申込状況から

SFX は全学利用だが、今回は本学大田原キャンパス図書館の ILL の申込状況を分析した。

1.申込件数

2010 年度と 2011 年度の申込件数の比較

2.申込状況の内訳

SFX の利用と、申込用紙による直接申込の比較

3.SFX からの申込者の属性別内訳

学部生、大学院生、教員、病院等教職員、卒業生・修了生

4.申込件数における当館所蔵とフルテキストリンク文献の分析

所蔵ありが約 7% フルテキストありが約 11% など

II .SFX の利用統計から

正式導入後の 2011 年 10 月からの利用統計を分析した。

1.月毎の利用統計

2.リンク元ソース毎の利用統計内訳

III.導入の効果と今後の課題

本学では、SFX 導入以前から、グループ内で資料共有し、キャンパスを超えた複写依頼も利用者は館内資料と同様 1 枚 10 円のみで複写を入手でき、送料は大学が負担している。本学の SFX 導入の目的は、本来の検索からシームレスにフルテキストにアクセスすることができる事の外、複写利用に便宜を図る目的もあった。結果として ILL の申込件数が増加した。図書館に来館せず文献が申し込めることや、図書館閉館後も申込可能となったこと、手書き申込書に記載する手間が省けることで、以前より気軽に申込するようになったと推測される。一方、SFX の特徴である所蔵確認やフルテキストへのリンク機能が十分活用されておらず、自館所蔵文献やフルテキストにリンクのある文献の申込も依然として多く、利用案内が不足している現状も分かった。月毎の SFX の利用状況は ILL の申込状況に比例し、学生、大学院生は 4 月から SFX と ILL の利用が増加していた。文献検索指導をする場合、4 月～5 月頃を目安とし、利用の多かった医中誌、CiNii についてと、SFX のリンク機能について行なうことが有効であると思われる。